

第61号 「人工知能3」

人工知能については、過去の「校長室カントービレ」でも書きました。私にはなかなかついていけない分野ではあります、今号は第3弾として、私が大きな衝撃を受けたテレビ番組について書かせていただきます。

2019年9月29日、NHKスペシャルで「AIでよみがえる美空ひばり」が放送されました。美空ひばりは、1989年に死去した歌謡界の女王です。没後30年として、NHKやレコード会社で眠っていた多くの映像や音源などを人工知能に学習させ、「デジタルヒューマン」として「AIひばり」を誕生させました。つまり、死んでしまった人間をデジタル上で不老不死の存在として現代によみがえらせたということです。これには賛否両論あることも事実です。

様々な分野のエキスパートが集まり、約1年間の準備期間を経て、AIひばりが披露されました。私が最も興味を持ったのは音声技術です。この企画のために作られた新曲を、AIひばりが見事に歌い上げていました。正直、素晴らしかった。これを可能にしたのは、「ボーカロイド」というソフトの存在です。

ボーカロイドは、ヤマハが開発した歌声の合成技術およびその技術を応用したソフトウェアの総称で、略してボカロとも言われます。メロディーと歌詞を入力して、サンプリングされた人の声をもとに歌声として合成します。息継ぎや強弱そしてビブラートなどの音程変化も入力できるため、表情豊かな楽曲を手軽に作れるのが特徴とされています。2000年に開発がスタートし、2004年に発売開始、その後もバージョンアップしながら提供され続けています。

このボーカロイドを利用して、「初音ミク」などのアイドルも誕生しています。音声だけでなく声に身体を与えたことで、実在しない架空のバーチャルアイドルとして世界的な人気を博しています。バーチャルアイドルは、今ではライブやコンサートも開催され、すでに一つの文化として定着しているのです。

音楽分野に限らず、バーチャルアイドルやデジタルヒューマンが人間に代わって活躍する時代が目の前に来ているのかもしれません。私はこの番組を見て、人工知能の無限の可能性を感じました。同時に、何が現実なのかを見極める力を持ち続けていないと、人間は心も身体も人工知能に支配されてしまう時代が来るのかもしれないという不安を覚えたことも事実です。

次号では、AIひばりの誕生プロセスに欠かせなかった「ディープラーニング」について述べさせていただきます。